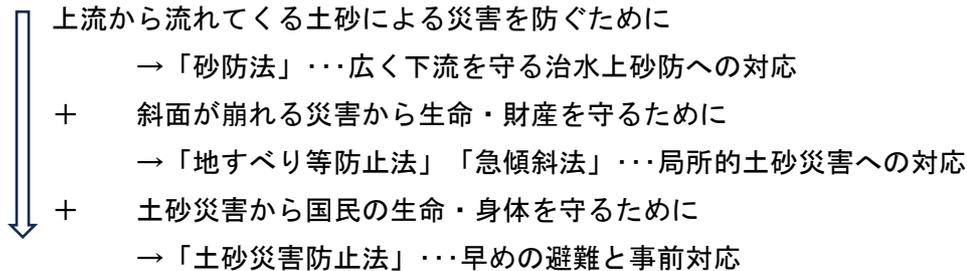


<レジュメ>

「砂防の歩みから考えるこれからの防災」

(一財) 砂防・地すべり技術センター 審議役 三上幸三

日本の土砂災害対策の歩み（砂防4法）



最近の土砂災害対策の動向

- ・ 流木災害、土砂・洪水氾濫災害の多発 → 「土砂・洪水氾濫対策」「流木対策」
- ・ 小規模溪流での人的被害の顕在化 → 「無流水溪流対策」
- ・ 土砂災害警戒区域等の全国指定 → まちづくり等他施策との連携

砂防の歩みから考えるこれからの防災

- ・ 砂防は、施設整備（ハード対策）からスタートし、
その技術を「いのちを守る」施策（ソフト対策）に展開
被害の想定される警戒区域＝お知らせ（イエロー）ゾーン
甚大な被害の想定される特別警戒区域＝規制（レッド）ゾーン
→→→リスク範囲と程度の明確化
- ・ 厳しい環境下の砂防現場で開発された技術は多方面で活用
- ・ 「いのちを守る」施策は防災全体に浸透

◎これからの防災は・・・

- 気候変動の影響も顕在化し、自然災害へのさらなる備えが必要
人口減少社会も意識して効率的・効果的な防災施設整備が必要
自助・共助・公助を総合した警戒・避難体制整備の取り組みが必要
- ・ ソフト・ハード合わせた全流域対応（「流域治水」）にシフト
- ・ 行政と住民の共働による「いのちを守る」行動実践にシフト
- ・ まちづくり、インフラ施策との有機的連携により、地域の“高密度化”を支援
- ・ 施設の効率的・効果的な整備・活用で防災強化を図り、地域活性化を支援
- ・ 新技術（特にデジタル技術）の積極的な活用・開発